

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成26年2月3日～4日に陸奥湾2定点で第9回付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

各地の出現数は表1、出現数の推移は図1～4のとおりです。

ユウレイボヤのラーバは久栗坂沖、川内沖とも見られませんでした。ザラボヤのラーバは川内沖1.1個/トン見られました。

オベリア類(通称「クサ」)のクラゲは、久栗坂沖で0.6個/トン、川内沖で3.9個/トン見られました。

キヌマトイガイ(コメガキ)及びネンエキボヤのラーバは見られませんでした。

表1 付着生物のラーバ等の出現数 単位：個/トン

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H26.2.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
川内沖	H26.2.4	0.0	1.1	0.0	3.9	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの2月5日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(2/5)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	9.0	東湾ブイ	3.3
青森ブイ	5.2	浜奥内ブイ	2.6

※浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値

3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバは出現ピークが過ぎており、今後付着する個体はほとんど無いと考えられます。

ネンエキボヤのラーバはいずれの地点でも確認されていませんが、久栗坂実験漁場のパールネットに付着した群体中には放出前のラーバが10月に確認されており、同時期に分散したパールネットには12月上旬から群体が確認されています。

オベリア類(クサ)は久栗坂実験漁場のパールネット等に1月中旬から新たに付着していることが確認され、東湾でクラゲが多い地点もあることから注意が必要です。

キヌマトイガイ(コメガキ)のラーバはまだ見られていませんが、パールネットに付着している個体が成熟しているので、今後ラーバが発生するものと思われます。

今後のラーバの出現動向や付着状況については、次回(2月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。

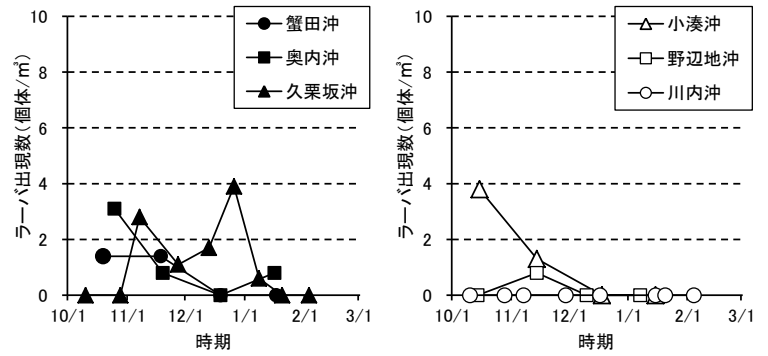


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

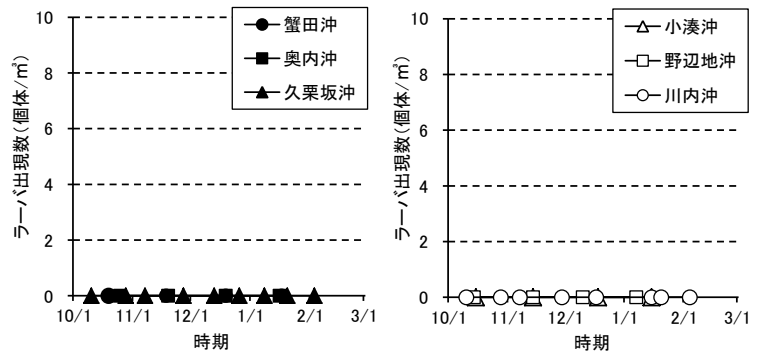


図2 ネンエキボヤラーバ出現数の推移

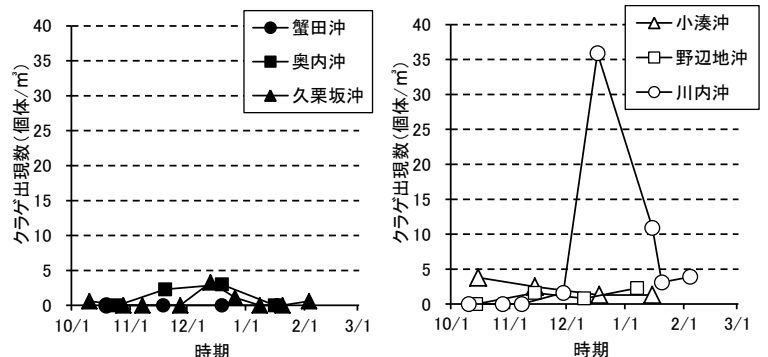


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移

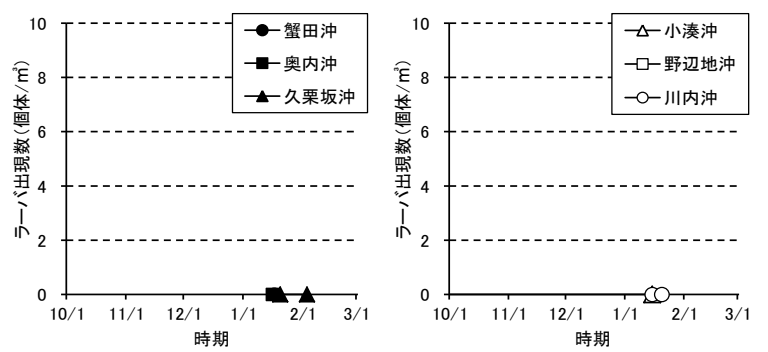


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移

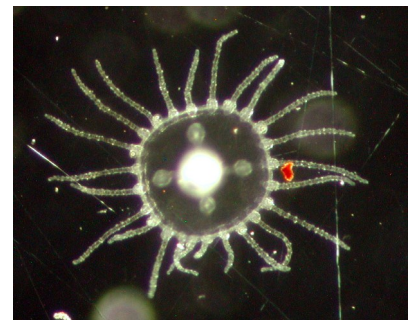


写真1 ホヤ類の浮遊幼生(左からユウレイボヤ、ネンエキボヤ、ザラボヤ)

写真2 オベリア類のクラゲ

発行元：地方独立行政法人
青森県産業技術センター 水産総合研究所
住所：青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
TEL：017-755-2155 FAX：017-755-2156

水産総合研究所ホームページ <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

①ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード

②陸奥湾観測データ総合管理システム 携帯電話用QRコード

